

黒沢清

1955 年生まれ。立教大学社会学部卒業後、助監督を経て 1982 年『神田川淫乱戦争』にて監督デビュー。1997 年東京国際映画祭のコンペティション部門に『CURE』が選出され、役所広司が最優秀男優賞を受賞。その後同作は世界各国の映画祭に招待され、大きな話題を呼ぶ。以後、ベルリン、カンヌ、ベネチアなど世界三大映画祭をはじめ、新作が完成する度に様々な国際映画祭に招かれる。またパリのシネマテークをはじめ、国内外で特集上映やレトロスペクティヴが行われている。また 2021 年『スパイの妻』において、日本の映画人として、北野武監督の『座頭市』以来、17 年ぶりにベネチア国際映画祭で銀獅子（監督賞）受賞。NHK のクローズアップ現代が特別番組を組むなど、注目を浴びたことも記憶に新しい。